

---

雷

大澤豊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雷

### 【コード】

N6010V

### 【作者名】

大澤豊

### 【あらすじ】

タイムリーな話です…。

雷の音を聞くと不安になる。怖くて、一人でいられない。さつき、あいつがそう言った。

俺は、普段のあいつの挙動を知ってるから、なにカワイイゴぶっちゃってんの、とか言っちゃう。

「本当に怖いんだって」

あいつは目を見開く。

なんかあいつがビビってるのが信じられなくて、おかしくて、笑える。

いやいやいやいやいや、まじで？だって、ゴキもなんのその、だったじゃん。

「うわ、なにその顔、むかつく」

俺が笑っていると、あいつが怒るから、また笑える。

でも、ごめん。

俺、忘れてたよ、あいつの過去とか。

夏なのに、川遊びとか嫌がるし、

雨の日の夜は遅くまで起きてて、ずっと落ち着かないし、確かにちよつと変なところがあった。

俺も、ちよつと考えれば、思い出したかもな。

あいつ、

3歳くらいの方に洪水被害に遭ってたらしい。

雷じゃなくて、その後の増水が怖かったんだね。

だから俺は言った。

「な、俺、お金いっぱい貯めたら引越さねえ？」

は、とあいつ。やっぱりちょっとビビってて青白かった。

山の近くに引越そう、そう言って笑ってみたら、少しだけあいつの目に光が射したような気がした。

まあ、と俺は咳払いをし、「山の近くって言っても、通える範囲で  
だけど」と言うと、

「うん」とあいつは頷いて、「今度、プールで泳ぎ教えて」と言った。

話の筋合っていない。

でも、ちょっといい雰囲気になった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6010v/>

---

雷

2011年10月6日18時57分発行